

模擬個人面接を通して

～面接指導員からの、ワンポイントアドバイス～

教友会では、学生支援事業の一つとして、教友会推薦の面接員による「模擬個人面接」を、教員採用二次試験前に実施しています。本年度は、七月十八・十九・二十日の三日間行いました。

模擬個人面接終了後、各面接員から出されたアドバイスの主な内容は、次のとおりです。

○「入室から退室まで、すべて見られている」という自覚をもち清潔感のある服装・身だしなみ(髪型・長さを含む)、節度のある振る舞い(リュック等を背負って入室しない等)に気を付けたい。

○質問内容に正対して、簡潔・明瞭に自分の言葉で答える(姿勢・明らかな表情、声の大きさ、間の取り方、面接官への視線にも気をつけたい)。

声が小さい、早口等は、意識すれば短期間でよくなるので、日常生活の中でも意識したい。

○知らないことは答えられない、あいまいな理解では、自信をもって答えることはできない。特に、教育時事に関する内容(生成AIへの学校としての対応等)については、その内容だけ

ではなく、ねらいや実施上の課題等についても自分の言葉で答えられるようにしたい。

○大学推薦者は一次試験を免除されているとはいえ、教職教養・教育関係法規等、基本的な内容の理解に努めておきたい。

○自分が受験する自治体の求める教師像や教育施策についての理解を深めるとともに、なぜその自治体を志望するのかの理由を事前に明確にしておきたい。

○自己紹介の内容とともに、それに関連した質問を想定し、その答えも事前に準備したい。

○特別支援教育関係については、校種を超えて出題される傾向がある。「インクルーシブ教育」「支援学習」など基本的な内容についての理解を深めたい。

○保育士志望者でも、地方公務員法の基本的な内容の理解に努めたい(地方公務員になるという意識)。

○限られた時間の中でも、教師としての適性や自分の良さ等を最大限アピールできるようにしましょう。

模擬個人面接を受けて

～実際の面接で役立ったこと等～

心理教育実践学専修 水島 雅

社会専修 倉澤 麟太郎

私は模擬個人面接で、試験当日のような緊張感を味わうことができ、試験当日は落ち着いて試験に臨むことができました。面接試験は、色々な人とたくさん練習し場数を踏むことが大切だと思います。私は、大学のクラス別セミナーや他大学の学生との勉強会に参加したり友人と一緒に練習したりと、たくさん練習をしてきました。

模擬個人面接は、本番に近い環境で行うため、緊張します。仲間同士で練習してきた成果を発揮する機会になり、本番のような緊張感で受けることができたので、とても有意義な時間となりました。また、面接官の先生は教育現場で活躍されていた方であるため、現場経験を踏まえたアドバイスをくださいます。学生同士での練習では得ることができなかった情報や考え方を知ることができたため、教採だけではなく今後教員になった際にも役立つと思います。教採の勉強は大変なことも多かったのですが、先生方や周りの仲間を支えられ、合格できました。皆さんも夢に向かって頑張ってください。応援しています。

私は教員採用試験に向けて、大切にしていくことが二つあります。一つは実体験を伴う学びを積み重ねていくことです。教育実習を始めたとした現場での経験のおかげで自分の教育観を確立させ、そこで得た学びによって自分の思いに説得性をもたせることができました。

二つ目は、教員を目指す友人との関わりを大切にすることです。客観的な意見をもらえることに加えて、他者の考え方に触れることで、自分の考えに厚みが増します。また、仲間がいることで本番に向けてのメンタルケアにも繋がりが、心強かったです。

ただ、友人との面接練習は慣れも出てきて、緊張感がなくなってしまうがちなので、本番に近い環境で練習する機会も大切です。そのような場として、模擬個人面接は大変有効です。本番同様のよい緊張感をもって経験することができました。そのおかげで、緊張しすぎず本番に臨めたと思います。

自分に自信をもって、教員採用試験に向けて全力で頑張ってください。皆さんと働ける日を楽しみにしています。